

【取組内容④】 「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

C. デジタルドリルの有効活用

デジタルドリルの良さは、瞬時に正解・不正解を判定してくれることである。特に低学年の場合、児童だけでは丸付けができないことが多いため、保護者に負担してもらうか、翌日担任によるチェックを待つことになる。しかしながら、デジタルドリルならば、その場で正解・不正解がわかるため、不正解ならばもう一度取り組ませることができる。

また、印刷の手間を省けること、何度でも取り組ませることができることなど、長所が多い。

本校では、ドリル的な反復練習としてしようする無料アプリを使用している。

漢字のドリルアプリの良い所は、出題される漢字を画面いっぱいに行けることである。また、漢字の成否判定は厳しめになっており、書き順が違う場合や一画分の長さが足りない場合などは正解判定を出さないことである。そのため、丁寧に書くまで正解にならない。

算数のドリルアプリは1～3年生までの四則計算であり、3年生までは反復練習用として、4年生以上ではかつての「100ます計算」のように活用することができる。

他にも小学校1年生から中学校3年生までの学習（数学は高1まで）を網羅する反復練習用サイトお使用している。国語・算数だけでなく、社会・理科・英語の問題もあり、アプリをダウンロードして端末のメモリを圧迫することなく、活用できる良サイトである。



↑ 漢字ドリルアプリ



↑ 算数ドリルアプリ